

## 平成20年度「福井新元気宣言」推進に係る施策の実施結果 (平成21年3月末現在)

「福井新元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成20年4月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成21年3月

教育長 広部 正 紘

### I 総括コメント

#### 1 教育力の向上と文化の創造

- ・ 「全国学力・学習状況調査」(19年度から継続)、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(20年度初)において、本県の子どもたちの学力および体力・運動能力は共に全国最上位の成果を収め、全国から大きな注目を集めました。
- ・ また、本県の子育て・教育の特長をまとめたパンフレットおよびデータ集を新たに作成するなど、全国に向けた情報発信力を強化しました。
- ・ 第二次教育・文化ふくい創造会議は、学校マネジメント改革等について協議を進め、子どもたちの「総合的な学力」を向上するための施策・事業を平成21年度当初予算に盛り込みました。第三次会議では、ふくい文化の振興について協議しているところであり、平成21年度中には文化の振興方策について新たな方向性を示します。

#### 2 「ていねいな教育」と「きたえる教育」

- ・ 「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき、福井県独自の少人数教育を充実しました。平成20年度は、特に、小学校1、2年への非常勤講師の配置、小学校5年と中学校2、3年の少人数学級編制を拡充しました。
- ・ 子どもたちにとって楽しく分かりやすい授業を目指し、指導法や教材を改善・充実しました。特に、国語教育については、白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を、全小学校において始めました。また、独自に作成した漢字解説本「白川静博士の漢字の世界へ」の販売を開始したところ、全国各地から問合せをいただいています。
- ・ また、サイエンス教育については、新たに「地域サイエンス博士」が科学実験を行う「ふくいサイエンス寺子屋」、ノーベル賞を受賞された白川英樹博士による「ふくいサイエンスフォーラム」、「ふくい理数グランプリ」、「WRO2008福井エキシビジョン大会」など、学校内外で子どもたちの理数学力と興味・関心を高めるための事業を実施しました。
- ・ 子どもたちが社会性や職業意識、自己マネジメント力を身に付け、将来自立した社会人に成長するよう、職場体験や就業体験、国家資格の取得促進など、子どもたちの成長段階に応じた「きたえる教育」を推進しました。

#### 3 魅力ある県立高校の在り方

- ・ 高校で学ぶ生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、平成20年10月の高等学校教育問題協議会の答申を受けて、平成21年3月に県立高等学校再編整備計画を策定しました。

#### 4 いつでも身近に福井の文化

- ・ 福井子ども歴史文化館については、旧県立図書館の建物改修工事を行い、展示設計も完了しました。平成21年11月下旬の開館に向けた準備を着実に推進していきます。

#### 5 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

- ・ 国体の在り方について検討する国体検討懇話会から「国体検討結果報告書」を受けて、年頭に平成30年開催の第73回国民体育大会の誘致を表明し、「新しい形での国体」を検討することとしました。

(様式1)

## 6 恐竜ブランドの発信

- ・ 福井県立恐竜博物館については、第3次恐竜化石発掘調査およびタイ王国・中国での共同研究の実施など調査・研究のレベルの向上を図りました。平成20年度の第3次恐竜化石発掘調査では、鳥脚類の上顎(じょうがく)骨や歯骨、竜脚類の脊椎骨化石など脊椎動物化石約800点および恐竜足跡化石を発見しました。

また、平成19年度に発掘した岩石のクリーニング作業を進めた結果、小型獣脚類の歯4本が付いた上顎骨や脳函(のうかん)を新たに発見するなど、全身の約60%の化石を取り出すことができました。「フクイサウルス」「フクイラプトル」に次ぐ、国内3例目の新種の可能性につながる成果を挙げました。

年間入館者数は前年度を上回り、恐竜エキスポが開催された平成12年度を除けば過去最高の約39万4千人となりました。

## II 施策項目に係る結果について

- ・別紙「平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)」のとおり

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化</p> <p>◇ 教育力の向上と文化の創造</p> <p>県内外の有識者で構成する「教育・文化ふくい創造会議」において、本県の教育・文化の新たな振興方策についてテーマ毎に検討し、本県独自の施策を「教育・文化創造プロジェクト」として速やかに実行します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>「教育・文化ふくい創造会議」では、平成19年度に引き続き、「教員が本来の職務に専念するための学校マネジメント改革」や「少子化時代の学校・学級経営の在り方」をテーマに協議を進め、第二次提言が提出されました。</p> <p>この提言を踏まえ、平成21年度からは、新たに新教育課程に向けた指導体制を強化するための非常勤講師の配置や教員の教材研究を支援するためのシステムづくり、小・中学校統廃合に伴う学校生活を支援するための教員加配など、子どもたちの「総合的な学力」を向上するための施策、事業を推進していきます。</p> <p>また、平成20年11月には「ふくい文化の振興」をテーマに第三次会議をスタートさせました。平成21年度のできるだけ早い時期に提言をとりまとめ、文化面における本県独自の施策を速やかに実行していきます。</p>	
<p>&lt;20年度の検討テーマ&gt;</p> <p>① 教員が本来の職務に専念するための「学校マネジメント改革」 (19年度からの継続)</p> <p>② ふくい文化の振興</p> <p>③ スポーツの振興 等</p>		<p>会議の開催状況</p> <p>第二次会議(計5回) (検討期間) 平成19年12月～平成20年9月 (テーマ) ・教員が本来の職務に専念するための「学校マネジメント改革」 ・少子化時代の学校・学級経営の在り方と教育体制の充実 (成果) 第二次提言(7つの柱、34の提言)</p> <p>第三次会議(計3回) (検討期間) 平成20年11月～ (テーマ) ・ふくい文化の振興</p>	
<p>◇ 総合的な学力の向上</p> <p>子どもたちの持てる可能性を最大限に伸ばすことができるよう、県独自の学級編制基準等を定めた「元気福井っ子笑顔プラン」を「新笑顔プラン」として拡充し、さらにきめ細やかな指導を行います。また、国に対して、同プランをモデルに学級編制基準の見直しを行うよう働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「新笑顔プラン」として、本県独自の少人数教育を拡充したところ、教員が子どもたちに向き合う時間を増え、きめ細かな教育を行うことができました。</p> <p>また、国に対して学級編制基準の見直しを行うよう働きかけたところ、退職教員等を非常勤講師として配置する場合の補助制度が拡充されました。</p> <p>新年度は、この制度を活用して、低学年学校生活サポート非常勤講師を増員していきます。</p>	
		<p>小学校1、2年 学校生活サポート非常勤講師の配置 131人 ボランティア登録者 4,900人</p> <p>小学校3～4年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化</p> <p>小学校5、6年 少人数学級編制を実施 36人</p> <p>中学校1年 " 30人</p> <p>中学校2、3年 " 35人</p>	

## 平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
児童・生徒が知識や技能を活用して課題を解決する力や、自ら意欲的に学習する力が伸びるよう、各小・中学校で作成した学力向上プランに基づいた学習指導を実施します。また、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、更なる指導法の改善を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		全国学力・学習状況調査において、本県は2年連続で全国最上位との高い評価を得ていますが、各小・中学校においては調査結果をもとに学力向上プランを作成し、これに基づいた学習指導を実施しました。 また、県学力向上推進委員会においては、平成20年度調査の結果を詳細に分析し、「学習したことを日常生活で生かす」ことや「自分で課題を解決する力を身に付ける」ことなどの改善策を保護者・学校に周知しました。 さらには、知識や技能の活用力を向上させるための教材を、本県独自に開発・配布するなど、学力の更なる向上を目指していきます。	
小学校での教科担任制の導入や義務教育9年間を見通した学習指導や生徒指導の計画作成など、小学校と中学校が連携した指導について研究します。		〔成果等〕 引き続き実施します。	
		小・中学校間における学習指導や生徒指導等の円滑化など、義務教育9年間を見通した一体性のある教育を実現するため、県内8中学校区(中学校8校、小学校30校)において小中連携教育について実践研究しました。 この中で、児童・生徒の交流活動、中学校教員による小学校への出前授業などを実施し、父兄や地域内において小中連携の必要性についての理解を深めました。 平成21年度も、引き続き研究を実施し、各校区で中間発表を行うなど成果を広げていきます。	
〔小中連携教育について研究を行う校区数 新規 8中学校区〕		〔小中連携教育について研究を行う校区数 8中学校〕	
学校図書館において、市町やPTA等の関係団体との連携を図り、家庭等にある図書への寄贈を呼びかけるとともに、ボランティアの協力や公共図書館との連携を強化し、児童・生徒が楽しく読書活動を行うことができる環境をつくります。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		図書寄贈の先進事例の紹介や学校単位での図書寄贈運動への参加を広く呼びかけ、ボランティアの協力や公共図書館との連携を図りました。	
◇ 国語・英語教育 白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を、全小学校において実施します。また、子どもから大人まで楽しく学ぶ漢字教室を開催したり、教員が中心となり研究を深めるなど、「白川文字学」を広く普及します。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を、全小学校において実施しました。また、教員で構成する漢字学習推進研究会を開催し、研究の成果を実践報告会において普及しました。 さらに、一般県民向けの漢字教室のほか、新たに大型ショッピングセンター催事場においても「白川文字学パネル展」を開催し、多くの一般県民に参加いただくとともに、「漢字ジェスチャー大会」など新たなイベントを実施し、多くの参加者から好評を得ました。 また、平成20年12月から、県教育委員会が作成した漢字解説本「白川静博士の漢字の世界へ」の販売を開始したところ、県内外から購入希望等の問合せを数多くいただいています。	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>英語のコミュニケーション能力の基礎となる文法指導と発音指導法を改善します。また、外国語指導助手(ALT)や英語担当教員を対象とした研修を充実させるとともに、教授法の共有化を図り、児童・生徒の英語に対する興味・関心や英会話能力を高めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>発音記号や発音の仕方(口や舌の動き)などを盛り込んだ教材「英語の発音が楽しくなる本」を作成し、県内の小・中学校や高校で活用するなど指導法の改善を図りました。</p> <p>また、外国語指導助手(ALT)の研修では、英語担当教員もその研修に参加し、互いに研究する機会を設けるなど、研修内容の充実を図りました。</p> <p>これからも、英語担当教員とALTによる優れた教授法や指導案の共有化を進め、英語に対する生徒の興味・関心を高めるよう授業の改善に努めます。</p>	
<p>外国人講師による英語活動を毎週行う小学校数 (平成19年度 13校) 14校 (1校の増)</p> <p>授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) (平成19年度 43.4%) 45.0%</p>		<p>外国人講師による英語活動を毎週行う小学校数 14校 (1校の増)</p> <p>授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) 48%</p>	
<p>学習指導要領の改訂に伴い、平成23年度から小学校5年・6年に外国語活動が導入されることから、小学校の教員を対象に、英語の指導者養成研修会を開催し、教員の指導力向上に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>小学校の教員を対象に、小学生に対する外国語指導の研修会を開催しました。平成23年度からの本格実施に備え、さらに指導力の向上を図っていきます。</p>	
<p>小学校英語指導者研修会への参加者数 新規 200人以上</p>		<p>小学校英語指導者研修会への参加者数 262人</p>	
<p>◇ サイエンス(理科・算数・数学)教育 小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」の配置や専門的な内容を分かりやすく教える特別講師の派遣を拡充し、分かりやすい理科授業を広く行い、理科授業の充実を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>理科支援員などを配置し、実験等を多く取り入れた理科授業を実施したところ、「実験が増えて理科が好きになった」とか、「教科書に書いてある意味がよくわかった」など、理科に対する児童の興味・関心を高めることができました。</p> <p>平成21年度においても、多くの観察・実験を通じ、その現象の概念や考え方を理解できるよう、授業の充実を図っていきます。</p>	
<p>「理科支援員」または「特別講師」の活動学校数(平成19年度 53校) 65校</p>		<p>「理科支援員」または「特別講師」の活動学校数 71校</p>	
<p>放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、科学実験等を行う「ふくいサイエンス寺子屋」を開催し、理科や算数・数学に対する興味・関心を高めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>公民館や児童館などで、「ふくいサイエンス寺子屋」を開催したところ、「風や水の力で電気が起きる仕組みが分かった」など、学校で習わない内容を体験できることから、参加者から高い評価を得ることができました。</p> <p>比較的、開催数の少ない地域もあったことから、平成21年度は、これらの地域でより多く開催できるよう働きかけていきます。</p>	
<p>「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 新規 100か所</p>		<p>「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 100か所</p>	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>世界の最先端科学技術に触れ学ぶ「スーパーサイエンスフォーラム」や理科・数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ」を開催することにより、国際科学コンテスト等への参加機運を高め、中・高校生の理数科目に対する興味・関心や応用力を育てます。</p> <p>〔 全国・世界規模の科学技術コンテストへの加者数(平成19年度 19人) 25人 「ふくい理数グランプリ」への参加者数 新規 100人 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>ノーベル化学賞を受賞された白川英樹氏を迎えての「スーパーサイエンスフォーラム」を8月に、また「ふくい理数グランプリ」を12月と1月に開催しました。いずれも参加した生徒から好評で、「自分もノーベル賞を目指したい」など、夢を膨らませながら理数科目に対する興味・関心を高めることができました。</p> <p>さらに、全国規模のコンテストへの参加者数が前年度の2倍以上に増え、国際大会においても優秀な成績を収めるなど、各種コンテストへの参加機運の高まりも見られました。</p> <p>〔 全国・世界規模の科学技術コンテストへの参加者数 54人 「ふくい理数グランプリ」への参加者数 207人 〕</p>	
		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>WRO2008福井エキシビジョン大会の開催を通じ、本県の子どもたちは、高度なロボット工学やプログラミングなどの最先端の科学技術を使い、世界の強豪チームと対戦するという得難い経験をえることができました。</p> <p>完走できなかったチームもありましたが、終始熱心に大会に臨み、小・中学校の部門では本県チームが上位を独占しました。また、会場を恐竜博物館としたことから、ホームページなどで世界に対し恐竜王国ふくいを強くアピールすることができました。</p> <p>この成果を土台に、韓国で開催される21年度世界大会へ、本県からの参加チームが増えるよう、指導や研修会を行う体制を整えていきます。</p> <p>〔 WRO2008福井エキシビジョン大会 出場チーム: 30チーム(県内22チーム、海外8チーム) 出場者数 : 100人 チャレンジキャンプ: 1回(参加者数 98人) ロボット相談会等: 10回(参加者数247人) 計445人 〕</p>	
<p>◇ 職業意識の醸成</p> <p>中学生から望ましい職業観・勤労観を形成できるよう、中学校における職場体験学習の一層の充実を図ります。</p> <p>〔 各中学校の職場体験実施日数 (平成19年度 2.8日) 3日以上 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>先進校の成果を普及するためのリーフレットの配布や、県内事業所への協力を強めた結果、すべての中学校において職場体験学習を実施することができました。</p> <p>〔 各中学校の職場体験実施日数 3.1日 〕</p>	

## 平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>高校生の段階で望ましい職業観・就労意識の向上を図るため、講演会や就業体験などを実施するとともに、就職した卒業生に対する支援も含めた総合的な施策を実施し、離職率の低下を図ります。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>職業観や就労意識を高めるための講演会や就業体験等を実施し、3年後離職率について、昨年度より1.1ポイントの改善を図ることができました。</p> <p>引き続き、就業体験等の充実や社会人に必要なコミュニケーション能力の育成とともに、就職後のフォローアップを強め、さらなる低下を目指していきます。</p>	
<p style="text-align: center;">〔平成16年3月卒業者の3年後離職率 44.8% 平成17年3月卒業者の3年後離職率 43.7%〕</p>			
<p>職業系高校においては、情報処理技術をはじめ社会のニーズに即した、幅広い国家資格等の取得を目指した指導を行い、生徒のニーズを踏まえた進路選択を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>適切な進路選択につなげるため、国家資格等の取得を目指して、補修授業や職業能力開発協会などと連携した指導を行い、目標の2,700人に達しました。</p> <p>就職環境が厳しさを増す中、生徒がより専門的で高度な資格を取得し、自信を高めることができるよう、引き続き補習授業の強化など、継続的な指導を行います。</p>	
<p style="text-align: center;">〔国家資格取得者数 (平成19年度 延べ2,575人) 延べ2,700人〕</p>		<p style="text-align: center;">〔国家資格取得者数 延べ2,742人〕</p>	
<p>◇ 楽しい学校づくり</p> <p>「心の専門家」であるスクールカウンセラーを、県下全中学校に加え新たに小学校にも配置し、児童・生徒の心の悩みの解決を図り、不登校やいじめ等の問題に的確に対処します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>スクールカウンセラーを全公立中学校および公立小学校11校に配置し、児童・生徒や保護者等からの不登校やいじめ等の問題に関する相談に応じることができました。しかしながら、依然として、不登校やいじめ等が見受けられることから、今後とも施策の充実に努めていきます。</p>	
<p style="text-align: center;">〔スクールカウンセラー活動校数 (平成19年度 中学校 76校(全公立中)) 中学校 76校(全公立中) 小学校 新規 11校〕</p>		<p style="text-align: center;">〔スクールカウンセラー活動校数 中学校 76校 (全公立中学校) 小学校 11校〕</p>	
<p>退職教員を「学級復帰支援員」として学校に配置し、保健室や相談室に登校する生徒に対して学習や生活に関する個別指導を行うとともに、国に対しこの本県独自の施策を提案し、全国的な課題である不登校に対する新たな施策の創設を促します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>学級復帰支援員を8中学校に配置し、保健室や相談室に登校する生徒にきめ細かな指導を行うことで、学級への復帰を促すことができました。</p> <p>国に対して、新たな不登校対策としての制度創設を提案したところ、既存制度でも柔軟に対応できるとされたため、平成21年度においては、その活用も検討します。</p>	
<p style="text-align: center;">〔学級復帰支援員活動校数 新規 8中学校〕</p>		<p style="text-align: center;">〔学級復帰支援員活動校数 8中学校〕</p>	

## 平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
社会福祉士などをスクールソーシャルワーカーとして配置し、家庭・友人関係等、児童・生徒を取り巻く環境の問題解決を図ります。 (スクールソーシャルワーカーを置く市 新規 9市)		[成果等] 目標を達成しました。 スクールソーシャルワーカーを9市に配置し、児童相談所や警察等と連携しながら、問題解決を図ったところ、福井市や敦賀市の事例において著しい改善が見られました。 (スクールソーシャルワーカーを置く市 9市)	
発達障害のある生徒を支援できるよう、すべての県立高校において校内委員会を設置し、実態把握や支援方法の協議・検討を行います。 (県立高校における校内委員会設置率 (平成19年度 65.6%) 100%)		[成果等] 目標を達成しました。 すべての県立高校に校内委員会を設置し、実態把握や支援方法についての協議・検討を行いました。その結果、福祉施設と連携した指導方法を取り入れることがさらに必要であることがわかり、教育委員会において連携する担当者を置くなど、支援体制の強化を図りました。 (県立高校における校内委員会設置率 100%)	
◇ おいしい給食の実現と食育活動 栄養教諭が中心となり、地場産農産物を活用した学校給食を通じ、児童・生徒や保護者に対し、食育の大切さを伝えます。また、食育ボランティアと共同で、献立の作成や調理を行い、共同調理場方式の受配校に提供するなど、おいしい学校給食の実現を図ります。 (学校給食が好きな子どもの割合 (平成19年度 61.3%) 67.5% 朝食欠食率 (平成19年度 1.3%) 1.2%)		[成果等] 目標を一部達成しませんでした。 県内の8共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携した学校給食の提供や食育活動を行いました。 また、学校給食調理コンテストや児童・生徒の主体的な給食改善プラン発表会等による児童・生徒、保護者の学校給食への関心を高める活動を実施しました。 食べ残しが減るなど、事業を行った学校では高い成果を上げることが出来ましたが、全県下でみると学校給食が好きな子どもの割合は微増にとどまりました。 このため、新年度においては新たな共同調理場や学校において活動を行い、よりおいしい給食を目指すなど児童・生徒の関心を高める対策を強めていきます。 (学校給食が好きな子どもの割合 64.1% 朝食欠食率 1.2%)	
◇ 魅力ある県立高校の在り方 高校で学ぶ生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、高等学校教育問題協議会の答申を踏まえ、魅力ある県立高校の在り方について、具体的な検討を行います。		[成果等] 目標を達成しました。 平成20年10月の高等学校教育問題協議会の答申を受け、平成21年3月に県立高等学校再編整備計画を策定しました。 (平成20年10月 高等学校教育問題協議会答申 「新しい県立高校の在り方検討会」設置 平成21年2月 県立高等学校再編整備計画(案)公表 計画(案)についてのパブリックコメント実施 平成21年3月 県立高等学校再編整備計画策定)	



## 平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
◇ いつでも身近に福井の文化 「福井子ども歴史文化館」の平成21年中の開館を目指し、展示内容の具体的な検討や展示設計を行い、建物改修工事を進めます。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		旧県立図書館の建物改修工事を3月末に完成させました。展示内容については、展示設計業者から8月末に提出された基本設計をもとに、各歴史ゾーンの展示構成や目玉となる展示等、細部にわたる内容を検討委員会において検討・調整し、3月末に実施設計としてとりまとめました。 また、子ども歴史文化館において、ノーベル物理学賞受賞者である南部陽一郎博士の御功績等を紹介することについて、先生御本人から快諾を得ることができ、「知の巨人 科学の世界」コーナーの設置に向け大きく前進しました。 新年度においては、平成21年11月下旬の開館に向け、工事を進めていきます。	
総合的な学習の時間、学校行事、各教科等の時間を活用し、郷土の歴史や偉人、文化、産業、自然など、郷土に関する学習を実施して、郷土に愛着を持つ児童・生徒を増やします。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		各小・中学校においては、郷土に関する学習を年間計画に位置づけ、郷土の歴史や偉人に学んだり、伝統文化に触れるなど、学校・地域の特色を生かした郷土教育を推進し、子どもたちの郷土に対する愛着心を養いました。	
〔郷土学習の平均学習時間(年間) (平成19年度 小学校54時間 中学校35時間) 小学校44時間以上 中学校32時間〕		〔郷土学習の平均学習時間(年間) 小学校 55時間 中学校 32時間〕	
おはなし会などの子ども向けのイベントを充実するなど、より多くの子どもたちに親しまれる図書館運営を行うとともに、企画展示やレファレンス(調査相談)の充実、インターネットを利用したサービスの拡充や大学図書館との連携を進め、図書館サービスのより一層の充実を図ります。		〔成果等〕 目標を達成しました。	
		「科学あそび」や「お米教室」など子ども向けイベントや「おはなし会」(毎週土曜日)の開催、月ごとにテーマを決めた企画展示やそれに関連するイベントの実施など、図書館を身近に感じる活動を強めたところ、特に、子ども向けの図書貸出し数に増加がみられました。 また、レファレンス(調査相談)の充実や携帯電話を活用した情報提供などインターネットを利用したサービスを拡充し、より利用しやすい環境整備に努めたところ、問い合わせ件数やインターネットでの予約件数がいずれも増加しました。 さらに、県内高等教育機関の図書館との相互協力協定を、前年度締結した福井大学附属図書館に加え、平成20年12月、県内全ての大学等図書館と締結しました。これを受け、図書貸出冊数は前年度よりも約1万5千冊増加しました。	
〔子ども向け図書の貸出冊数 216,000冊 レファレンス件数 22,000件 インターネット予約貸出件数 37,500件〕		〔子ども向け図書の貸出冊数 216,247冊 レファレンス件数 28,215件 インターネット予約貸出件数 45,063件〕	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>県立音楽堂や学校などで、子どもたちが第一級の芸術・文化を直接体験できるよう、音楽や絵画等の鑑賞機会を拡充し、気軽に芸術・文化に親しみ楽しめる機会を増やします。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>第一級の芸術文化を直接、鑑賞・体験する子どもの数は、平成19年度を上回る60,692人となりました。平成21年度においても、プロの芸術家による部活動での実技指導を強化させるなど、事業の充実に努めていきます。</p>	
<p>〔第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数(平成19年度 58,060人) 60,000人〕</p>		<p>〔第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 60,692人〕</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <p>(1) 芸術文化を鑑賞する機会への参加 子ども鑑賞シート・ちびっこコンサート(いずれも県立音楽堂)、ふれあいミュージアム、芸術鑑賞教室ほか (開催数 122回) 41,953人</p> <p>(2) 芸術文化を体験する機会への参加 伝統文化子ども教室、文化芸術による創造のまちほか (開催数 203回) 5,805人</p> <p>(3) 活動機会を発表する機会への参加 ふくい子ども文化祭、県高等学校総合文化祭 (開催数16回(部門)) 7,688人</p> <p>(4) 芸術文化のレベルアップを図る機会への参加 「ヤング・アート・キャンプ」、ハーモニーセミナーなど (開催数 26回) 5,246人</p>	
<p>本県の文化財の歴史的・学術的な背景を調査し、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけるなど、ふるさとの宝である文化財の価値を高めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>これまでに実施した庭園や考古資料などの基礎調査に基づき、文化財に関わる専門職員で構成する文化財指定等推進チームが指定候補となる文化財の選定作業を進めるとともに、文化財保護審議会委員と共同で4回実地調査等を行いました。</p> <p>また、国指定候補となる文化財については、保存修理や発掘調査の実施結果など、文化庁に対し、積極的な情報提供を行いました。</p> <p>新規指定件数は平成19年度と同程度となっていますので、平成21年度においては、文化財指定に必要な調査を計画的に実施し、文化財の価値を明らかにしながら、引き続き、文化財の新規指定・登録等を進めていきます。</p>	
		<p>〔平成20年度における指定等件数 25件〕</p> <p>重要文化財 2件 重要伝統的建造物群保存地区 1件 国登録有形文化財 18件 県指定文化財 4件 (有形2件、有形(追加)1件、無形民俗1件)</p>	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>「ふくい いろはかるた」の活用・普及をはじめ、祭りや暮らし、歴史などを整理・記録し、広く県民に知ってもらえるよう「平成ふくい風土記」運動を始め、長い歴史の中で培われてきた地域が持つ個性を後世に伝えます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p>	
		<p>「ふくい いろはかるた」を実際に作成し、図書館など関係機関に配布しました。また、子どもたちの地域活動の場などでも利用できるよう、「ふくいけんきつずページ」(県ホームページ)から、かるたをダウンロードできるようにしました。</p> <p>平成21年3月、池田町において、「ふくい いろはかるた」を使ったかるた大会が開催されるなど、遊びながら地域のことを学び楽しむ活動が広がっており、平成21年度においても、引き続き、かるたを活用した郷土学習の普及を図ります。</p>	
<p>個々の祭りや民俗芸能をテーマ化、ストーリー化し、年間を通じた大きなまとまり(群)として捉え、その価値を顕在化できるように、「ふくいの祭り・民俗芸能群」の制度創設に向けた準備を開始します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p>	
		<p>無形民俗文化財を専門とする県文化財保護審議会委員や学芸員などをメンバーとする検討会議を3回開催し、民俗芸能等群の具体的な設定や個々の祭り等の認定方法などを検討しました。</p> <p>それに基づき、個々の祭りや民俗芸能、習俗等の保存と活用が図れるよう、平成21年度から群認定制度を創設し、運用を開始します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">民俗芸能等群(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越前の正月・小正月行事</li> <li>・ふくいの盆行事</li> <li>・厄除け行事・お祓いの芸能</li> <li>・舞楽法要・神楽</li> <li>・若狭の正月・小正月行事</li> <li>・ふくいの農耕習俗</li> <li>・港町の祭りと山車</li> </ul> </div>	
<p>◇ 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援</p> <p>「スポーツふくい基金」の創設については、「国体検討懇話会」の議論を踏まえ、引き続き検討していきます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p>	
		<p>平成20年12月に国体検討懇話会から最終報告書の提出がありました。また、県議会においても、スポーツ促進議員連盟が設けられ、国体誘致に関する体制が整ったことを受け、平成30年開催の第73回国民体育大会の誘致を表明しました。</p> <p>厳しい財政状況や国民の国体に対する関心の変化を考慮し、福井県の健康長寿、また、福井の風土に合ったスポーツの振興などを議論し、新しい形での国体の具体化に努めます。</p>	

## 平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>スポーツを得意としない児童が、放課後にドッジボールやソフトバレーボールなど身近なスポーツ等を行うことにより、子どもの頃から体を動かす習慣を身に付けられるよう支援し、スポーツが大好きな子どもを育成します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>教職員や外部指導者の指導を受けながら、主に運動習慣のない児童を対象に、学校や地域の実態に応じて週1回、1時間程度、ドッジボールなど体を動かす活動を県内8小学校で実施しました。</p> <p>本県は、全国体力・運動能力テストにおいて、小学生は全国1位、中学生は全国2位という高い評価を得ていますが、子どもたちに体を動かす喜びを与えることで、生涯にわたる運動習慣が身に付くよう活動を広げていきます。</p>	
<p>〔週1回、放課後1時間程度の運動を実施する学校数 (平成19年度 3小学校) 8小学校 (5小学校の増)〕</p>		<p>〔週1回、放課後1時間程度の運動を実施する学校数 8小学校 (5小学校の増)〕</p>	
<p>県民スポーツ祭における冬場の種目の増加や、総合型地域スポーツクラブの交流促進など、年間を通じて県民の誰もが運動・スポーツ、レクリエーション活動を生活に取り入れる「健民スポーツ運動」を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭は、冬季開催の種目の増加、年齢枠の細分化による高齢者の参加促進、団体未登録者の初めての参加など、実施方法の見直しにより昨年比べて参加者が約900人増加しました。</p> <p>また、総合型地域スポーツクラブは、平成20年度中に4クラブが創設され、平成21年度から県内9市町において17クラブが活動することになりました。</p>	
<p>〔県民スポーツ祭参加者数 (平成19年度 27,035人) 27,500人〕</p> <p>〔総合型地域スポーツクラブ総数 (平成19年度 13クラブ) 15クラブ〕</p>		<p>〔20年度県民スポーツ祭(17市町) 夏季大会 6/1~10/26 冬季大会 11/2~2/15 参加者総数 27,912人〕</p> <p>〔総合型地域スポーツクラブ数 平成19年度末 13クラブ(福井市1、鯖江市3、越前市6、大野市1、敦賀市1、越前町1) 平成20年度末 17クラブ(新規地区 福井市1、勝山市1、坂井市1、あわら市1)〕</p>	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<b>2 女性活躍社会</b> ◇ 子育て支援 地域の実情に応じて、「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。また、市町に対して、「放課後子どもクラブ」に希望者全員が入所できるようクラブの新設・拡充を支援するとともに、円滑な運営を行うための運営委員会の設置を働きかけます。		[成果等] 目標を達成しました。 県内195校区(前年度よりも4校区増)において「放課後子どもクラブ」を実施しました。 また、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に行う推進母体である運営委員会の設置を働きかけ、市町の実施部局による連絡会を開催し、情報の共有化を図りました。 平成21年度から、学校の空き教室等を最大限利用できるよう、施策の拡充を図ったところであり、小学校4年生以上や留守家庭以外の児童を含め、すべての子どもが安心して放課後を過ごすことのできる環境の整備を県として支援していきます。	
(運営委員会を設置する市町の数 (平成19年度 10市町) 15市町 (5市町の増))		(運営委員会を設置する市町の数 15市町 (5市町の増))	
<b>3 日本一の安全・安心(治安回復から治安向上へ)</b> ◇ 学校内外の安全の確保 防犯教室をはじめとする安全教育の徹底を図ります。また、市町および地域が行う学校設備の整備や登下校時の児童・生徒の安全確保活動を支援します。		[成果等] 目標を達成しました。 小・中・高校において、より実践的な防犯教育が実施できるよう各学校の安全管理・安全教育責任者や保護者、地域関係団体を対象に防犯教室講習会を開催し、学校・家庭・地域の連携強化に対する意識を向上させました。 また、登下校時の見守り活動を充実させるため県内5ブロックで学校安全ボランティア講習会を実施したことにより、地域内の危険箇所の点検や見守り活動が活発化しました。	
(主な安全活動支援 ・防犯教室講習会 平成20年8月8日 会場:福井県立大学 参加者:教職員、PTA、見守り隊等 267名 ・学校安全ボランティア講習会 県内5地区で開催 参加者:見守り隊員、PTA、学校安全責任者 417名 ・スクールガードリーダー配置 25名、県内6ブロック、1人約10校相当 ・子ども安全安心パワーアップ事業 3市町に補助(あわら市、坂井市、永平寺町))		( )	
学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、県内の小・中学校の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。		[成果等] 目標を上回って達成しました。 耐震補強工事については、小・中学校施設の耐震化促進を支援するための県独自の補助制度を拡充させ、市町の負担軽減を図りました。今後とも、市町への働きかけを一層強化し、耐震化を促進していきます。	
(耐震補強工事 (平成19年度 21棟) 25棟)		(耐震補強工事 35棟)	

**平成20年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)**  
(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
4 夢と誇りのふるさとづくり ◇ 恐竜ブランドの発信 恐竜博物館から恐竜発掘現場までを中心とした九頭竜川上・中流域一体を「恐竜渓谷(ダイノソバレー)」として捉え、部局連携により、恐竜モニユメントの設置や野外博物館の整備に向けた検討を進めるなど、新たな観光誘客につながる魅力を創出します。		[成果等] 引き続き実施します。  大型恐竜モニユメント設置の着手やえちぜん鉄道駅舎および車輦内への恐竜博士モニユメントを整備しました。また、野外博物館の整備に向けた検討を行いました。 平成21年度においては、映画館の整備や年間観覧券の導入など、引き続き、新たな観光誘客につながる魅力の創出に努めていきます。	
		・恐竜モニユメントの設置 (勝山市内への大型恐竜モニユメント設置に着手) (えちぜん鉄道駅舎、車輦内用の恐竜博士モニユメントを整備) ・観光看板の整備 (丸岡IC付近、勝山市内に恐竜博物館への案内看板を設置) ・野外博物館の整備に向けた検討 (ふくい恐竜渓谷(仮称)整備検討委員会を開催し、恐竜化石発掘現場を野外博物館として整備する内容などについて検討)	
第3次恐竜化石発掘調査に加え、タイや中国での発掘および調査研究を進め、国内外における恐竜研究の最先端を目指すとともに、首都圏を中心に民間企業と連携した広報活動を実施するなど、恐竜ブランドを広く全国に発信することにより、さらに入館者数の増加を図ります。		[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。  第3次恐竜化石発掘調査およびタイ王国・中国での共同研究の実施など調査・研究のレベルの向上を図り、全国にアピールすることができました。 年間入館者数は、日本初公開の標本を多数展示した特別展の開催や民間企業と連携した広報活動などの結果、平成19年度を上回り、恐竜エキスポが開催された平成12年度を除けば、過去最高の約39万3千人となりました。	
		・第3次恐竜化石発掘調査の実施 平成20年7月14日～9月6日(55日間) (成果)鳥脚類の上顎骨や歯骨、竜脚類の脊椎骨化石などの脊椎動物化石800点や足跡化石を発見 ・海外恐竜化石共同研究事業の実施 (タイ 平成20年11月7日～12月19日 タイ王国珪化木鉱物資源博物館と発掘調査を実施) (中国 平成20年5月14日～5月27日 浙江自然博物館と共同発掘のための予備発掘調査を実施) ・民間企業と連携した広報活動 (首都圏SS会員へのPR) (コンビニエンスストアでの企画展前売券の販売 平成20年6月～7月) ・恐竜博物館の入館者数 392,727人  ※ 入館者数の推移 17年度 243,006人 18年度 297,904人 19年度 383,423人	
( 恐竜博物館の入館者数 (平成19年度 38.3万人) ) 40万人			

## 4年間の目標数値の進捗状況報告(教育庁)

(平成21年3月末現在)

指標名	18年度の現状	19年度の現状	20年度の現状	22年度末までの目標
学力の向上 県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合	—	小学校 77.3% 中学校 57.1%	小学校 76.9% 中学校 56.5%	小学校 80%以上 中学校 60%以上
学級編制基準の見直し	—	(小学1、2年生)40人学級 (36人以上の学級に非常勤講師配置) (小学5年生) 40人学級 (小学6年生) 36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生)36人学級	(小学1、2年生)40人学級 (35人以上の学級に非常勤講師配置) (小学5、6年生)36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生)35人学級	(小学1、2年生)40人学級 (33人以上の学級に非常勤講師配置) (小学5、6年生)36人学級 (中学1年生) 30人学級 (中学2、3年生)33人学級
「福井型コミュニティ・スクール」の実施校数(小中学校) (※)(新元気宣言で目標数値を設定した指標(以下同じ))	133校	全小中学校 (291校)	全小中学校 (289校)	全小中学校 (283校)
英語授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生)	39.5%	43.4%	48%	50%以上
小中学校における不登校児童・生徒の割合	(小学校)0.32% (160人) (中学校)2.49% (626人)	(小学校)0.38% (183人) (中学校)2.64% (665人)	(21年度に調査)	(小学校)0.30%以下 (140人以下) (中学校)2.45%以下 (600人以下)
高校生の就職3年後の離職率	42.2%	44.8%	43.7%	40%未満
地場産学校給食の実施校数(※)	244校	245校	271校	すべての学校給食実施校 (293校)
学校給食が好きな子どもの割合	63.4%	61.3%	64.1%	80%
県立音楽堂等で第一級の芸術・文化を直接体験する子ども(小・中・高校生)の数	4万6千人/年	5万8千人/年	6万人/年	6万人/年
県立図書館の図書貸出冊数	86万1千冊/年	83万5千冊/年	85.6万冊/年	90万冊/年
日本体育協会が公認する上級指導員、上級コーチ数	91人	85人	88人	120人以上
総合型地域スポーツクラブ数	10クラブ	13クラブ	17クラブ	17クラブ
県立恐竜博物館の入館者数	29万人/年	38万人/年	39.3万人/年	40万人/年

(※)は福井新元気宣言において数値目標を設定した指標